

草津市
いじめ対応
マニュアル

草津市教育委員会事務局
学校教育課

もくじ

I	いじめ問題に関する基本的な考え方	1
1	いじめとは	1
2	いじめの基本認識	1
II	未然防止	2
	具体的な取組	2
III	早期発見	4
1	きめ細やかな日常の行動観察	4
2	児童生徒や保護者が相談しやすい環境づくり	4
3	教職員間や学校と保護者との間の緊密な情報共有	4
IV	いじめへの対処	5
1	いじめが起きたときの対応	5
2	迅速な対応	7
3	特に配慮を要する児童生徒への対応	7
4	いじめの認知から解消までの流れ	8
V	ネット上のいじめへの対応	9
1	ネット上のいじめとは	9
2	特殊性による危険	9
3	未然防止	10
4	早期発見・早期対応	10
5	書き込み等の削除の手順（例）	11

...

I いじめ問題に関する基本的な考え方

いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長および人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれのある決して許されない行為であり、いじめの問題は、学校を含めた社会全体の課題である。

次代を担う子どもたちが、安全・安心な教育環境下でたくましく生きる力を育ていけるようになるためには、その阻害要因となるいじめをなくす取組を継続して展開していかなければならない。

1 いじめとは

いじめの定義

「いじめ防止対策推進法」第2条（定義）

第2条 いじめとは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、**当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの**をいう。

いじめの態様

○心理的な影響を与える行為

- ア 冷やかしかやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことをいわれる。
- イ 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- ウ パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。 等

○物理的な影響を与える行為

- ア ぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- イ 金品をたかられたり、隠されたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ウ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。 等

個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童生徒の立場に立つことが必要である。この際、いじめには多様な態様があることに鑑み、法の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たっては、「心身の苦痛を感じているもの」との要件が限定して解釈されることのないよう、例えば、いじめられていても、本人がそれを否定する場合が多いことを考慮することや、「物理的な影響」については、身体的な影響の他に金品の要求や行為の強要等があること、さらには、けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合があること等を踏まえ、当該児童生徒の表情や様子をきめ細かく観察するとともに、いじめを受けた児童生徒本人や周囲の状況等を客観的に確認する必要がある。

2 いじめの基本認識

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうるものであり、単に謝罪をもって安易に解消することはできません。「**子どもの目線**」に立ち、**学校が一丸となって組織的で迅速な対応**を行うことが必要です。児童生徒それぞれの人格を尊重し、その声に耳を傾け、児童生徒の気持ちや、その置かれている様々な環境を理解しながら、その思いを聴き出すまで関わっていくことが重要です。

Ⅱ 未然防止

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうるという認識のもと、より根本的ないじめの問題を克服するためには、**すべての児童生徒を対象に、いじめは決して許されないことの理解を促し、その未然防止を図ることが大切**です。

このためには、いじめを生まない環境をつくり、すべての児童生徒を、心の通う対人関係を構築できる大人へと育ていけるよう、学校、家庭、地域その他の関係者が一体となって継続的な取組を進めていかなければなりません。

具体的な取組

道徳教育の充実 [思いやりの心]

人権教育の充実 [人権尊重の精神の涵養]

読書活動や体験活動等の充実 [様々なかかわりを深める]

居場所や出番があり安心して過ごせる学級づくりの推進 [心の居場所づくり]

児童会・生徒会活動の充実 [主体的な活動]

教師の姿勢

温かい学級経営

生徒指導の三機能を生かした授業づくり

豊かな心の育成

自尊感情の育成

※生徒指導の三機能とは・・・

- ①「自己決定の場を与える」……………自分で決めて実行させること。
- ②「自己存在感を与える」……………自分は価値のある存在であるということを実感させること。
- ③「共感的な人間関係を育成する」…相互に人間として無条件に尊重し合う態度で、ありのままに自分を語り、理解し合う人間関係をつくらせること。

教職員と子どもの信頼関係の構築

教職員の協力体制の確立

教職員の協力体制の確立

温かい教育活動

家庭、地域との連携と啓発

家庭、地域と連携を進めることは、いじめに対する家庭、地域での気づきと教職員の気づきを互いに共有でき、いじめの未然防止には大切な取組です。

- ・「コミュニティ・スクール」
- ・「地域協働合校の取組」
- ・「PTAの各種会議」
- ・「学校ホームページ」
- ・「学校、学年だより等の広報活動」

等

情報モラル教育の推進

インターネットの特殊性による危険や子どもたちが陥りやすい心理を踏まえた指導が大切です。また、学校での指導だけでは限界があり、家庭での指導が不可欠であることから、保護者と緊密に連携・協力し、双方で指導を行います。

《子どもたちに理解させるポイント》

- 発信した情報は、多くの人にすぐに広まること
- 匿名でも書き込みをした人は特定できること
- 違法情報や有害情報が含まれていること
- 書き込みが原因で、トラブルを招き、別の犯罪に繋がったり、ときには自殺を招く可能性もあること
- 流出した情報は、簡単には削除できないこと



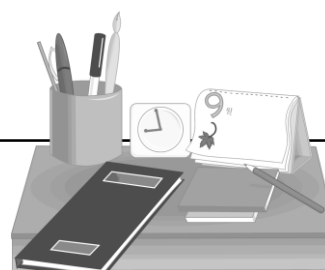
Ⅲ 早期発見

いじめは、早期に発見することが早期の解決につながります。早期発見のために、日頃から教職員と子どもたちとの信頼関係の構築に努めることが大切です。いじめは、大人からは見えづらく、また、事実認定が難しいものであることを認識し、教職員が子どもたちの小さな変化を敏感に察知し、**いじめを見逃さない認知力を向上させることが求められます。**

また、いじめを生まない環境をつくり、すべての児童生徒を、心の通う対人関係を構築できる大人へと育ていけるよう、学校、家庭、地域その他の関係者が一体となって継続的な取組を進めていかなければなりません。

1 きめ細やかな日常の行動観察～子どもがいるところには、教職員がいる体制～

- 健康観察での様子の確認
- 休み時間の行動の変化
- 生活ノート等の内容の変化
- 授業中の様子の変化 など



2 児童生徒や保護者が相談しやすい環境づくり～気軽に相談できる雰囲気づくり～

- 定期的なアンケート調査や教育相談の実施
- 児童生徒や保護者との信頼関係の構築
- 教職員の相談スキルの向上（校内研修等）
- 啓発活動の推進
- 相談機関の周知 など

3 教職員間や学校と保護者との間の緊密な情報共有

- 教職員間での情報共有
- 保護者との情報交換
- 地域からの情報提供
- 児童生徒からの情報提供 など



IV いじめへの対処

いじめの兆候を認知した時は、問題を軽視することなく、早期に適切な対応をすることが大切です。**いじめられている子どもの苦痛を取り除くことを最優先に迅速な指導**を行い、解決に向けて特定の教職員だけで抱え込まず、学校問題対策委員会へ報告し、**組織的に対応**することが重要です。また、いじめの再発を防止するため、日常的な未然防止の取組と継続的に見守る必要があります。

1 いじめが起きたときの対応

被害児童生徒に対して

- つらい気持ちを受入れ、共感することで心の安定を図る。
- 「最後まで守り抜く」「秘密を守ること」を伝える。
- 自信を持たせる言葉かけなど、自尊感情を高めるよう配慮する。
- 学校はいじめを絶対許さない強い姿勢や、指導の方向を伝える。

被害児童生徒の保護者に対して

- 認知したその日のうちに、家庭訪問等で保護者に面談し、事実関係を伝える。
- 学校の指導方針を伝え、今後の対応について協議する。
- 保護者のつらい気持ちや不安な気持ちを共感的に受け止める。
- 継続して保護者と連携し解決に向けて取り組むことを伝える。
- 家庭での子どもの変化に注意してもらい、どんな些細なことでも相談されるよう伝える。

加害児童生徒に対して

- いじめた気持ちや状況などについて十分に聴く。
- 子どもの背景にも目を向ける。
- 成長支援という観点を持ちながら指導する。
- 毅然とした態度でねばり強い指導を行う。
- いじめが人として決して許されない行為であることを認識させる。
- いじめられている側の気持ちを認識させる。



加害児童生徒の保護者に対して

- **認知したその日のうちに**、保護者に面談し、正確な事実関係を説明し、いじめられた子どもや保護者のつらい気持ちや不安な気持ちを伝え、よりよい解決を図ろうとする思いを伝える。
- **「いじめは決して許されない」**という毅然とした態度を示し、事の重大さを認識させ、家庭での指導を依頼する。
- 子どもの変容を図るため、今後の関わり方などを**一緒に考え、具体的な助言をする**など連携を図り支援する。

周囲の児童生徒に対して

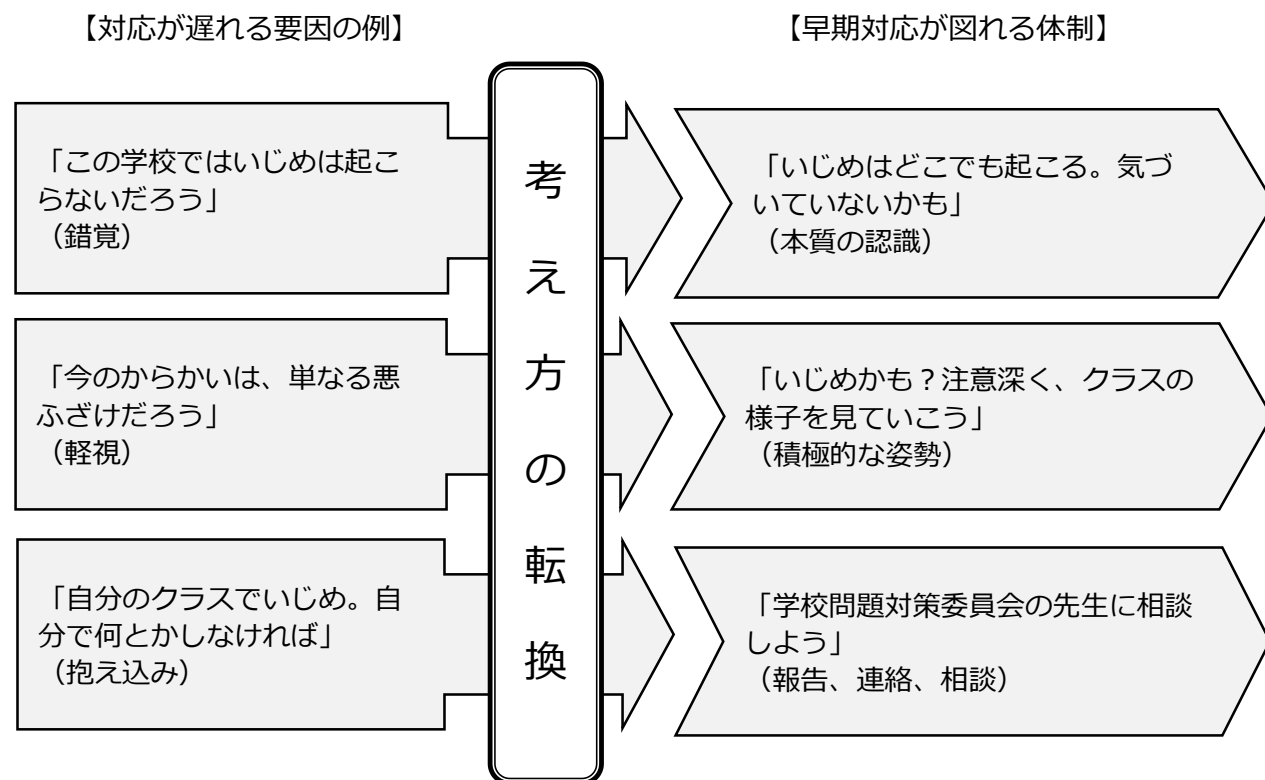
- 当事者だけの問題にとどめない。
- 学級および学年、学校全体の問題として考える。
- いじめの傍観者からいじめを抑止する仲裁者への転換を促す。
- 「いじめは決して許されない」という毅然とした態度を、学級・学年・学校全体に示す。
- はやし立てたり、見て見ぬふりをする行為も、いじめを肯定しているということを理解させる。
- いじめを訴えることは、正義に基づいた勇気ある行動であることを指導する。
- いじめに関する資料をもとに、いじめについて話し合い、自分たちの問題として意識させる。

継続した指導

- いじめが解消したと判断した場合でも、生活ノートや教育相談などで、引き続き十分な観察を行い、その後の状況についての把握に努める。
- いじめられた子どもの良さを見つけ肯定的な関わりから、自信を取り戻せるよう支援する。
- いじめられた子ども、いじめた子ども双方にスクールカウンセラーや関係機関との連携を含め、心のケアにあたる。
- いじめの発生を契機として事例を検証し、再発防止・未然防止のための日常的な取組を実践し、いじめのない学級づくりを推進する。

2 迅速な対応

迅速な対応が遅れる場合の一例です。考え方の転換を図り、より迅速な対応が図れる体制づくりが大切です。

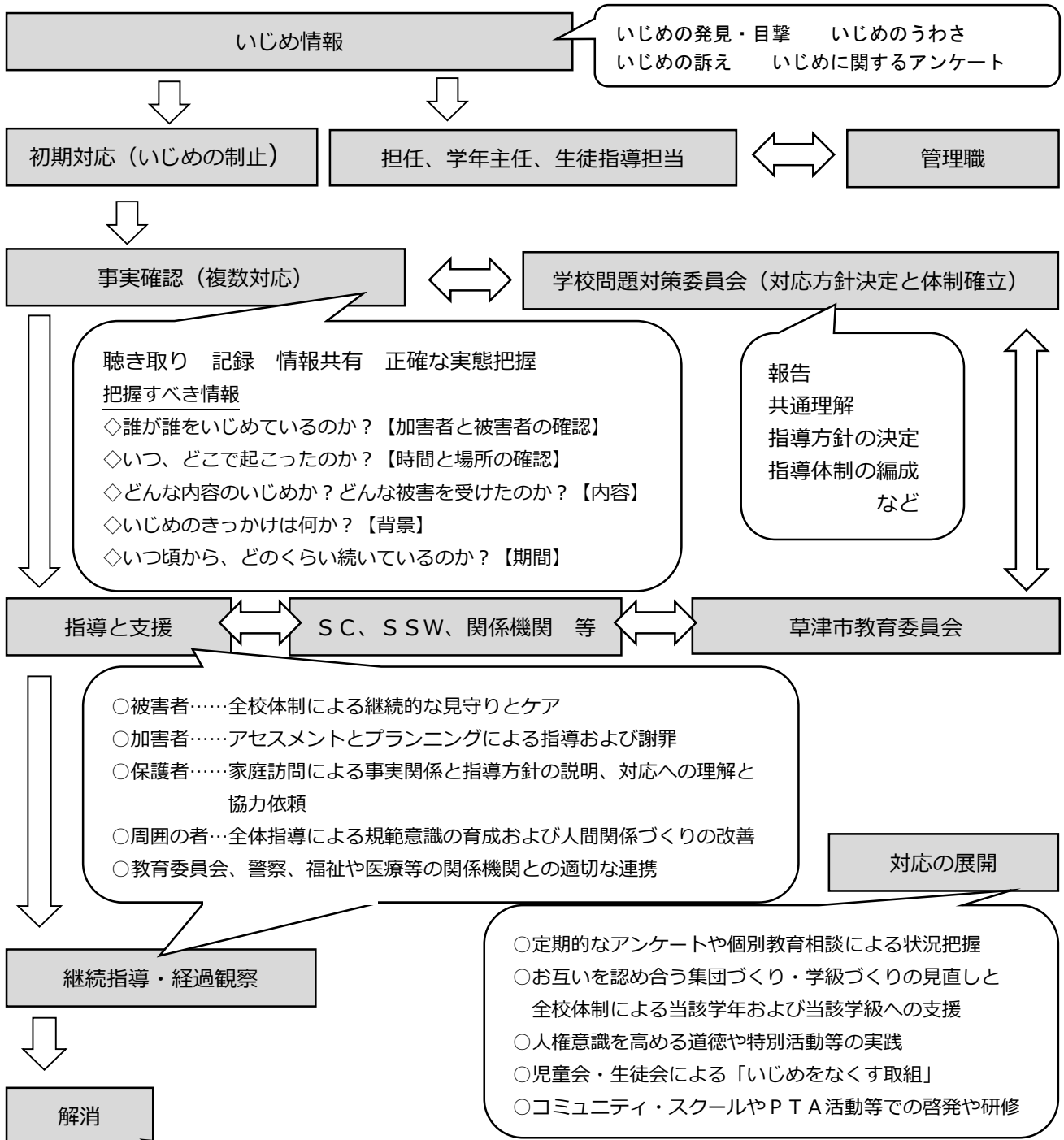


3 特に配慮を要する児童生徒への対応

- 発達障害を含む、障害のある児童生徒がかかわるいじめ
- 海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒、国際結婚の保護者を持つなど外国につながる児童生徒
- 性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するいじめ
- 東日本大震災等により被災した児童生徒又は原子力発電所事故により避難している児童生徒

※上記の児童生徒を含め、学校として特に配慮が必要な児童生徒については、日常的に、当該児童生徒の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童生徒に対する必要な指導を組織的に行わなければなりません。

4 いじめの認知から解消までの流れ



いじめの解消要件

- いじめ行為が止んでいる状態が相当の期間 (少なくとも3か月を目安とする) 継続していること
- 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

※「解消」を急ぐことなく、組織的に十分な見守り等の支援を続けることが大切です。同じ集団の中でいじめが潜在化し、ターゲットが変わりながら継続することも考えられます。

V ネット上のいじめへの対応

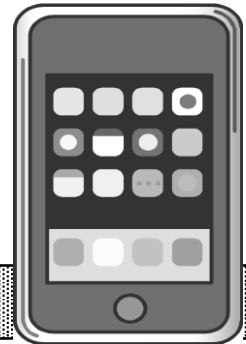
インターネットの特殊性による危険を十分に理解した上で、ネット上のトラブルについて最新の動向を把握し、情報モラルに関する指導力の向上に努める必要があります。

未然防止には、子どものスマートフォン・携帯電話、パソコン等を管理する保護者と連携した取組を行う必要があります。早期発見には、被害を受けている子どもが発するサインを見逃さないよう、保護者と連携した取り組みが不可欠です。

ネットいじめを発見した場合は、迅速な対応を図るとともに、人権侵害や犯罪、法律違反など、事案の内容によっては、警察等の関係機関と連携して対応にあたる必要があります。

1 ネット上のいじめとは

スマートフォン・携帯電話やパソコン等を利用して、特定の子どもの悪口や誹謗・中傷等をインターネット上のWebサイトの掲示板などに書き込んだり、動画共有サイトに投稿したりする方法により、いじめ行為をおこなうものをいいます。



2 特殊性による危険

- 匿名性により、自分だとはわからなければ何を書いてもかまわないと、安易に誹謗・中傷が書き込まれ、被害者にとっては、周囲のみんなが誹謗・中傷していると思うなど、心理的ダメージが大きい。
- 無料通話アプリを利用するグループ内でも、ある日突然、既読無視、グループ外し、未読等のいじめが起こることもある。
- 掲載された個人情報や画像は、情報の加工が容易にできることから、誹謗・中傷の対象として悪用されやすい。
- スマートフォンで撮影した写真を安易に掲載した場合、写真に付加された位置情報（GPS）により、自宅等が特定されるなど、利用者の情報が流出する危険性がある。
- 一度流出した個人情報は、削除することが困難であるだけでなく、不特定多数の者に流れたり、アクセスされたりする危険性がある。

3 未然防止

《子どもたちに理解させるポイント》

- 発信した情報は、多くの人にすぐに広まること
- 匿名でも書き込みをした人は特定できること
- 違法情報や有害情報が含まれていること
- 書き込みが原因で、トラブルを招き、別の犯罪に繋がったり、ときには自殺を招く可能性もあること
- 流出した情報は、簡単には削除できないこと

《子どもたちへの指導のポイント》

- 誹謗・中傷を書き込むことは、「いじめ」であり、決して許される行為ではないこと
- 匿名で書き込みができるが、書き込みを行った個人は必ず特定されること
- 書き込みが悪質な場合は、犯罪であり警察に検挙されること

《保護者に伝えること》

- 子どもたちのスマートフォン・携帯電話を持たせる必要性について検討すること
- 家庭において、子どもたちを危険から守るためのルールづくりを行うこと
- 子どもたちのスマートフォン・携帯電話やパソコン等を管理するのは家庭であり、フィルタリングをすること
- インターネットへのアクセスは、「トラブルの入り口にいる」という認識やインターネット特有のトラブルが起こりうるという認識を持つこと
- 「ネット上のいじめ」は、他の様々ないじめ以上に、子どもたちに深刻な影響を与えることを認識すること
- メールを見たときの表情の変化など、トラブルに巻き込まれたときに子どもが見せる小さな変化に敏感になること

4 早期発見・早期対応

- 書き込みや画像の削除への対応等、具体的な対応方法を子ども、保護者に助言し、協力して取り組む必要があります。
- 学校、保護者だけでは解決が困難な事例が多く、警察等の専門機関との連携が必要になります。

5 書き込み等の削除の手順（例）

ネット上のいじめの発見
児童生徒、保護者等から相談

大津地方法務局へ人権相談すると、プロバイダ等への削除依頼等の具体的方法を助言される。場合によっては、警察署や県警本部のサイバー犯罪窓口等を案内される。

書き込みの確認

- ・ 掲示板のアドレスを記録
- ・ 書き込みをプリントアウト
- ・ スクリーンショット等で画面保存
- ・ 携帯電話の場合は、デジタルカメラで撮影



メッセージ機能を用いて
投稿により発信者へ直接、削除依頼

(発信者が削除に応じない場合)

問い合わせフォームから削除依頼の問い合わせをすると、サイトから「送信防止措置依頼書」郵送される。必要事項を記入し返送する。

サイトを運営している会社や
経由プロバイダに削除依頼
(経由プロバイダとは、インターネットの接続業者のこと)

(サイトを運営している会社や
経由プロバイダが削除に応じない場合)

削除確認

場合によっては、裁判所に
削除依頼の仮処分の申立